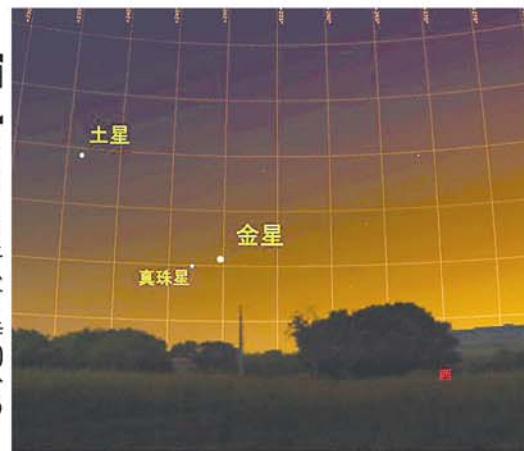


黄昏時(たそがれどき)の「たそがれ」というのは「誰そ彼」、つまり「だれあの一とは」ということで、日が沈んでだんだん暗くなり、顔もよく見えなくなる時間を指しています。夕焼けの色もきれいで、1日の仕事も終わり、少し落ち着いた、いい時間かもしれません。きょうを反省してちよつとしよんぼりしている時もあるかもしれません。

9月上旬ですと、日没が午後6時ごろですので、6時半から40分が黄昏時で、夜のとほりが下りるまでのほんの20分ぐらいいい時間と言えそうです。天文学的用語では、この時間を薄明(はくめい)と言います。

図1は6時40分ごろの西の空を表しています。南西

9月上旬、20分の黄昏時



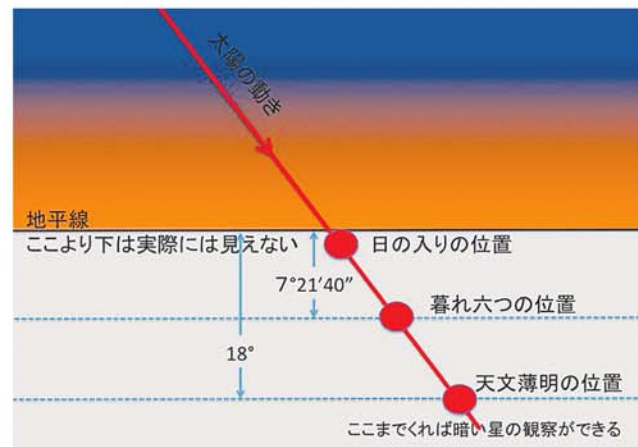
【図1】9月4日午後6時40分の西の空(山形市)
||ステラリウムを用いて作図

方向に宵の明星の金星が明るく輝いています。そのすぐ隣に1等星が見えているでしょう。これは、和名で真珠星、西洋の名ではおとめ座スピカです。やや左手高い位置に土星が見えると

思います。これらの星はすぐに沈んでしまいますので、時間を見計らってぜひお楽しみください。また、昔から「秋の日はつるべ落とし」と言っ

て、暗くなると言います。本当でしょうか。薄明の時間は地平線の下、何度のところまで太陽が沈んだかで決まります(図2)。

江戸時代の寛政暦のころから「暮れ六つ」として黄



【図2】地平線から何度下にあるかで薄明の時間を決めている

実際、こうして定義された暮れ六つを用い、日没から暮れ六つまでの時間を調べてみると、秋分の日のは30分ぐらいで短く、夏至や冬至のころは40分ぐらいで長くなります。ですから本当に秋のころは日没から暗くなるまで早いのです。ただし、春分のころも同様に早く暗くなるのですが、こちらはなにも言わないのは不思議ですね。夕暮れ時に味わいのあるのはやはり秋だからでしょうか。

やまがた天文台

山形市の山形大小白川キャンパス内。毎週土曜日、星空ガイドツアーを開催。時間は午後7時15分～、同7時45分～、同8時15分～。参加料は小学生以上200円。

問い合わせは山形大インフォメーションセンター023(628)4050